

6月定例記者会見会議録

平成28年6月3日（金）午前11時～
伊賀市役所2階第3会議室

1. 市長からの発表

皆さんこんにちは。6月に入り、あちこちに白いウツギの花が目につくようになりました。今朝、「ホトトギスの声を聞きました。「ホトトギス 鳴きつる方を眺むれば ただ有明の月ぞ残れる」という詩がありますけど、その姿は見えませんでした。さて、梅雨入りも間近だと思いますが、先日は6月議会に関わる記者会見を行いました。今日は定例会見ということであります。今日、私の方から発表3つあります。

1つ目は、「俳句のユネスコ無形文化遺産登録をめざす発起人会及び記念講演会について」です。

3月の施政方針の中でも述べました「俳句」のユネスコ無形文化遺産への登録をめざし、発起人会を7月22日に行うこととしました。

今回、発起人として名を連ねるのは、国際俳句交流協会の有馬明人（ありま あきと）会長、公益社団法人俳人協会の鷹羽狩行（たかは しゅうぎょう）会長、公益社団法人日本伝統俳句協会の稲畑汀子（いなはた ていこ）会長、現代俳句協会の宮坂静生（みやさか しずお）会長、東京大学名誉教授の川本皓嗣（かわもと こうじ）先生、そして、私、伊賀市長の岡本栄の6名です。

今月22日金曜日の午後2時から、上野公園にある偲翁舎で、登録に向けたこれからの取り組みなどを協議します。なお、この日は、現代俳句協会からは、会長に代わり伊藤政美（いとう まさみ）副会長が。日本伝統俳句協会からは、会長に代わり大久保白村（おおくぼ はくそん）副会長が出席頂くこととなっています。なお、発起人会については、会議の後、午後3時40分ごろから、同じく偲翁舎の応接室で行うこととしています。

また、翌日23日土曜日には午前10時から、ハイトピア伊賀の5階で、有馬明人先生の記念講演を予定しています。「東洋 とくに日本の詩と、西洋の詩」と題し、芭蕉さんや正岡子規などが、どんなふうに偉大なのかをお話しいただけるそうです。

芭蕉さん生誕地の責務として、俳句の魅力を発信し、その輪を広げていく手段の一つとして、「俳句」のユネスコ無形文化遺産の登録を目指し、関係自治体、団体等に登録推進を呼びかけることとします。

2つ目は、伊賀市「健康マイレージ事業」についてです。

伊賀市では、今年度から、働く世代の健康づくりに重点を置いた「“いが忍にん”健康プロジェクト」を立ち上げました。働く世代は、職場や家庭、地域において役割が増し、自分の健康を振り返る時間が少なく、生活習慣も乱れがちです。人生90年時代。健康寿命を延ばすためには、働く世代の健康づくりが大切です。仕事も、人生も楽しく、充実した生活が送れるように、自分にあった健康づくりに取り組むための仕組みづくり。「気づく」「変わる」「続ける」をキーワードに、誰もが気軽に、楽しく実践でき、参加したくなるような健康づくりプランを充実させているところです。

今月から「“いが忍にん”健康プロジェクトの一環として、「健康マイレージカード事業」を開始します。

内容は、自分で決めた健康目標へのチャレンジや市が行う健康づくり事業への参加。また、健康診断等を受信するなど、健康づくりの取り組みを行い、ポイントを貯めて応募いただくと抽選で景品が当たるというものです。家族や友人、同僚など、皆さんでチャレンジし、健康づくりを続けるためのモチベーションアップにつなげていただきたいと思います。今後は、これまでから行っている「健康づくり講座」についても、“まちの講師編”を設け、さまざまな講師に登録して頂くなど、魅力あるメニューの充実も行います。近々、登録講師のパンフレットも公開する予定です。「自分の健康は自分でつくるもの」という視点に立ち、日々の生活習慣を見直し、改善する良い機会と思います。皆さんも、是非「健康マイレージ事業」をご利用いただきたいと思います。

3つ目は、「で・あ・い」から「結婚」へのきっかけづくりセミナーについてです。

伊賀市では、「来たい・住みたい・住み続けたい“伊賀”」をモットーに、若い人たちが安心して住み、安心して子どもを産み育てる環境を充実させるため、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで、切れ目のなく支援する取り組みを進めています。

そこで、「で・あ・い」から「結婚」へのきっかけづくりとして、7月24日の日曜日にハイトピア4階多目的室で、結婚を希望する25歳から45歳くらいを対象としたセミナーを開催します。男性は、午前10時から、女性は、午後1時30分からとなっています。

男女のそれぞれが、恋愛心理カウンセラーの畑中弥生（はたなか やよい）先生から、カラー心理テストを受け、自己の恋愛観に合ったパートナー選びのヒントを伝授いただくというものです。

参加いただいた男女には、8月7日の日曜日に、上野商工会議所と伊賀市商工会が主催する「出会い交流イベント」に参加いただき、素敵な出会いにつながるよう、進めていく予定です。

以上、発表事項ですが、4月24日からオープンした「にんにんパーク」の続報を申し上げます。

5月は、市内はもちろん、市外からも親子で多くの方にお越しいただきました。兄弟で忍者衣装に着替え、芝生広場で、にんにん体操や「からだそだて」のプログラムを楽しんでいただきました。

定住自立圏構想を推進する中で、伊賀市にある「にんにんパーク」は、自然あふれる広場で、親子がふれあい、保護者同士の交流の場として活用いただけます。子育て中のお父さんやお母さんが、気軽に子育ての悩みを相談いただける広場として、近隣の市町村の皆さんにも、さらに利用いただきたいと思っています。

2. 6月の主な行事予定

(1) 2016年6月 寺田市民館「じんけんパネル展」の開催について (資料No.4)

日時：2016年6月1日(水)～28日(火) 午前8時30分から午後5時

※6月8日(水)・15日(水)・22日(水)は午後7時30分まで延長

場所：寺田教育集会所 第1学習室

内容：「2013年度人権問題に関する三重県民意識調査結果からみえてきたこと」

主催者：人権生活環境部 寺田市民館 (電話：0595-23-8728)

3. その他【主な質疑応答の概要】

記者：ユネスコ無形文化遺産の発起人会の呼びかけ人は有馬さんと岡本市長だけですか。

市長：そうです。伊賀市は芭蕉さんの生誕地として誇りを持ち、世界に誇る俳句俳諧というものをしっかりと守り育てていかなければなりません。また伊賀市としてすべきことはいろいろな施設整備も大事ですが、やはり世界無形文化遺産というものが大変着目されていますので、ぜひ俳句を登録していかなければならないと思い、芭蕉俳句と大変ゆかりのある元文部大臣の有馬朗人さんにご相談しましたところ、賛同をいただき、有馬氏より是非やりましようとの力強いお言葉をいただきました。その上で今回の発起人の皆さんにお声かけをしていただきました。実際にユネスコ無形文化遺産に認定されるためには、まだまだこれから時間や努力が必要ですが、まずその第1歩をこの伊賀市で行います。

記者：7月22日の発起人会設立のメンバーが決まったのはいつですか。

担当：最終的には4月上旬に決まりました。

記者：4月上旬までにメンバーが決まって7月22日に発起人会、そのメンバーが決まるにあたって、市長と有馬さんがそのお二人が呼びかけ人として他の4人が決まったのですか。

市長：そうです。私が有馬先生にお願いをして有馬先生の方で人選をしていただいて、そして我々の方も先生の方からもいろいろと調整をしていただいた。去年の11月に有馬先生の浜松の大学へお尋ねしてお話をさせていただいたのが始まりです。

記者：結果は22日に決めますけども、11月にはどんなことを話し合われましたか。

市長：基本的には、芭蕉の俳句というようなものを短詩形式の俳句というようなものをユネスコの世界文化遺産の認定を目指してやっていこうという意味確認と、それからどのように広めていけばいいのかそのスキームをもう少し発展させてスキームをどのようにしていけばいいのか、そこら辺をお話できればと思っておりますけど。まだまだご協力いただきたいことが残っております。

記者：発起人の方は今後が増えないのですか。

市長：発起人は増えないと思います。今後はそれが実際に俳句に関係のある自治体や、

芭蕉さんにゆかりの地のなどの方たちが集まった時に、実行委員会などが設置されていくのかなど、そういったことについて22日にお話をお聞きできればと思います。また、芭蕉370年のときにご寄付もいただいた寄付金も残してありますので、組織作りにこれからしっかり役立てていきたいと思っております。

記者：ウィッツの役員が交代したということについてどう思われますか。

市長：本当に教育の幹部にふさわしい方かどうかについてしっかりと説明をいただきたいと思ひますし、まずはしっかりと注目をして行きたいと思ひます。大事なことはウィッツの再生に絡んで、教育の本分をしっかりと理解され、ふさわしい方かどうか問題であると思ひます。

記者：賑わい創出検討委員会が出してこられた報告について市長は今どう考えていますか。

市長：考え中です。何を考えているかと言うと、議会の提言と賑わい協議会から提言というのもありました。その中から共通するべきものは何なのかというのと、それに基づいてどう考えるべきかということについて、今考えています。9月議会には何らかの提案をしなければならないと思ひています。

記者：庁舎北側駐車をアスファルトにしてその後、北庁舎跡地を何かさわることも二重投資にならないと思ひますか。

市長：そうです。だからそれは二重投資というのは、その使える間で手を入れてしまうという話ですから。今回の使用であれば、多分お釣りが出て元がとれると思ひます。

記者：読者から駐車で舗装の経費のことで聞かれたことがありまして、碎石の利用などの検討はされなかったのですか。

市長：碎石の駐車場ですと、土埃や、音の問題があります。利用者の快適性と周辺の方に対する環境面での配慮が必要です。